

## 特集1 自動車リース業界でいち早くカーボンニュートラル宣言へ

### EVの普及促進で脱炭素化を加速

100年に一度と言われる大変革期を迎えている自動車業界ではカーボンニュートラルに向けたEV戦略を本格化しています。

カーボンニュートラルを実現させるためには、技術開発といったイノベーションに加え、インフラ整備の加速や、コスト抑制などの課題が多く、普及促進に相当な時間が掛かると予測しています。

当社は、グループとして約102万台の保有管理台数と、約5万社のお客さまの移動をサポートする自動車リース業界のリーディングカンパニーとして、より多くのパートナーと連携しながらEV戦略を進めるべく、2050カーボンニュートラルの宣言を行いました。EVの普及促進に向け、住友三井オートサービスグループ一丸となって、モビリティ社会の脱炭素化を加速させてまいります。



## カーボンニュートラル宣言

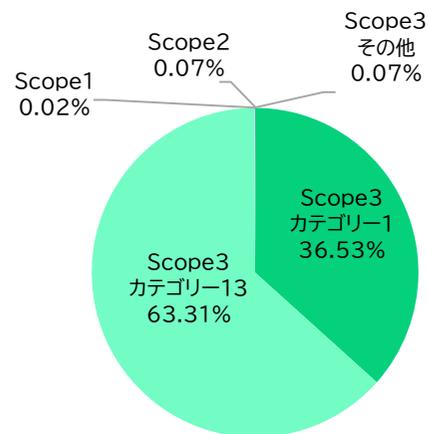
### GHG排出量の算定をScope3にまで拡大

この壮大な目標の実現に向け、当社の現状を正確に把握して、バックカスティングでチャレンジな事業計画を策定するために、Scope1、2のGHG排出量の算定に加え、2022年度からは算出範囲をScope3まで拡大しました。

当社のScope1、2の排出量はサプライチェーン全体で占める割合の0.09%しかありませんが、率先してEV化を進める姿勢を示すことが大事と考えており、社用車のEV化を進めています。カーボンニュートラルの実現に向け、社用車のEV切替を加速させ、2024年までに50%のEV化、2030年度までに全車両完全EV化を目指します。

Scope3については当社からの直接的な排出ではないものの、サプライチェーン全体で占める割合が非常に高く、特にカテゴリ13の「リース資産(下流)の使用」に伴うGHG排出量は全体の6割以上を占めています。サプライチェーンのGHG排出量削減のためにも、自動車リースにおけるお客さまのEV導入、普及拡大に向けた活動を積極的に推進してまいります。

#### ●GHG排出量(Scope1,2,3)の割合



【データ集計範囲】  
 Scope1,2: SMASおよび国内連結対象グループ会社  
 Scope3: SMASおよびSMAサポート

年間196万トン(2022年度実績)